



樹齢約300年の旧東海道のシンボル「益田家のモチノキ」の 里帰り

りんぼく
— 林木遺伝子銀行110番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組 —

ポイント

神奈川県横浜市戸塚区にあった推定樹齢約300年の巨樹「益田家のモチノキ」の後継樹が、国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センターから里帰りします。

概要

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター(茨城県日立市)では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。

この事業では、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存を行うとともに、事業の一環として、所有者等の要請により後継樹を増殖する取組である「林木遺伝子銀行110番」を行っています。

今回は、神奈川県横浜市戸塚区柏尾町にあった「益田家のモチノキ」の後継樹として、さし木によって増殖し育てた苗木が里帰りします。

日時：令和8年4月19日(日) 午前11時

場所：神奈川県横浜市戸塚区柏尾町1317(柏尾小学校コミュニティハウス)にて式典
神奈川県横浜市戸塚区柏尾町1280-5(柏尾町みらい緑地)にて植樹

問い合わせ先

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター

事業責任者：遺伝資源部 探索収集課 課長 小長谷 賢一

担当者：探索収集課 遺伝資源収集係長 弓野 奨

広報担当者：育種企画課 調整係長 藤井 純

Tel：0294-39-7002 Fax：0294-39-7306

※取材される方は、事前に上記連絡先まで御連絡ください。

本資料は、神奈川県政記者クラブ、横浜市政記者室、茨城県政記者クラブ、日立市役所記者クラブに配布しています。

背景・経緯

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多く存在します。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けているので、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れている可能性が高く、林木遺伝資源として貴重なものです。一方で、樹木の中には衰弱しているものもあり、後継樹を増殖することが求められていました。

このため、林木育種センター^{りんぼく}では、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により衰弱しているこれら樹木の後継樹を増殖し、里帰りをを行う取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しています。これまでに、全国から 339 件の要請があり、266 件の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを実施してきました（令和 6 年度末）。

内容

今回里帰りするのは、かつて神奈川県指定天然記念物であった「益田家のモチノキ」です。

「益田家のモチノキ」は推定樹齢が約 300 年とされる 2 本の巨樹で、それぞれの樹高・目通り・根回りは、18m・2.4m・3.2m、及び 19m・3.2m・4.9m に達していました。これほどの大きさに加えて美しい樹冠を有していたこと、また、江戸時代から旧東海道沿いに立ち続けていた歴史的背景を持つことが評価され、昭和 56 年（1981 年）に神奈川県の天然記念物に指定されました。

しかし、平成 29 年（2017 年）には、無断で樹体の一部が切除され、樹勢が衰退していました。このため、柏尾地区連合町内会はモチノキの枯損を懸念し、同連合町内会からの要請を受けた戸塚区の申請により、林木育種センターでは、さし木による後継樹のクローン増殖を実施し、9 本の苗木の育成に成功しました。今回は、このうちの 6 本を柏尾町みらい緑地、柏尾町第二公園、上柏尾第二公園およびポーラ化成工業株式会社本社・横浜研究所敷地に植栽し、残りの苗木は林木育種センター内で保存することになっています。

残念ながら、「益田家のモチノキ」は平成 31 年（2019 年）に枯損し、天然記念物の指定は解除されましたが、同一の遺伝子を持つ後継樹は、二代目の「益田家のモチノキ」として生育することが期待されています。

図、表、写真等



平成 24 年(2012 年)3 月「益田家のモチノキ」
衰退前の原木の写真
写真提供: 斎藤純一 様



令和 7 年(2025 年)5 月「益田家のモチノキ」の枝を
さし木して育てた後継樹